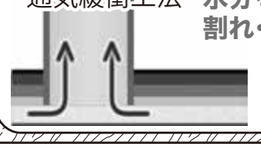
人にやさしく
地球にやさしい

大日新聞

72号

大日化成株式会社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755　FAX：06-6909-6702
URL：https://dainichikasei.co.jp

通気緩衝工法　水分を逃がし防水層の割れ・ふくれを防ぎます

BIGSUN
RX 工法

大阪府庁西面のスカイコートW採用について

透明外壁防水材「スカイコートW」は、今年で発売開始して10年目に突入します。使用するすべての材料が水性で1材型であるため、嫌な臭気が無く、計量したり混合撹拌したりする手間が省けて作業性が優れている事、他の材料に比べて透明度が高い事、なにより伸びと強度に優れた防水塗膜が、ユーザーの皆様に御好評を頂き、年々出荷数量も順調に右肩上がりで推移しております。

この大日新聞紙面でも何度か紹介させて頂いた大阪府庁舎本館外壁改修工事の最終工区である西面外壁改修工事が今からちょうど1年前の7月にスタートし、今回も北面・東面・南面に引き続き「スカイコートW」を採用して頂きました。先日、「スカイコートW」の施工も無事完了しましたので、ご紹介させて頂きます。

今回の西面外壁改修工事を受注した施工業者様は、「スカイコートW」を初めて施工する業者様だったため、施工が始まるタイミングで現場を訪問し、施工方法について職人の皆さんに現場の状態を確認しながらレクチャーを行い、材料について理解を深めて頂きました。当初は、1月～2月の寒い時期に施工を予定していたのですが、作業が議会の開かれない土曜・日曜・祝祭日の休日しか出来なかった事と、予想以上に下地の浮き補修やシーリング材の打ち替え作業等に手間取り、「スカイコートW」の施工は少し気温も暖かくなってきた3月後半にずれ込んでしまいました。結果的には、「スカイコートW」の施工に最も適した時期の施工となったので、「怪我の功名」といったところでしょうか。

北面、東面、南面の外壁タイルは目地が深く、細かいハケを使用して目地の中に材料を塗り込まなければならず、かなり作業に手間がかかったのですが、今回施工して頂いた西面の外壁タイルの目地深さは比較的浅く、ほぼローラー刷毛で施工が出来たため、作業の進行も今までの外壁面に比べて、かなり速かったようです。普段は塗装工事をメインにしている業者様という事もあり、1回で壁面に0.3kg／㎡の材料を塗布（防水材の下塗り・上塗り工程）するのは、材料がダレないか不安だったそうですが、実際に現場で材料を触りながらレクチャーを行ったこともあり、大体の塗布感覚は掴んで頂けたようで、規定数量通りに材料も出荷され、先日、無事に施工も完了したとの連絡を頂きました。

大阪府庁舎本館の建物は、国の登録有形文化財にも指定された大阪を代表する歴史的な建築物であり、その外観の意匠性を損なうことなく、維持保全に当社の透明外壁防水材「スカイコートW」が貢献出来たことは非常に光栄であり、素晴らしい施工実績となりました。

改めまして今回の現場に携わって頂いた、設計事務所の先生方、元請業者様、材料販売代理店様、施工業者の皆様に心より感謝申し上げます。「スカイコートW」および大日化成の製品をよろしくお願いします。

大阪・関西万博がついに開幕

2025年4月13日に大阪の夢洲で大阪・関西万博がついに開幕しました。

今回の万博は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとして160の国と25の国際機関をはじめ、企業やNGO／NPOや市民団体等が参加しています。会場全体の面積は約155ヘクタール（東京ドーム33個分に相当）で、「未来社会の実験場」として180を超える各国のパビリオンや文化・芸術が体感できる施設が設けられており、次代の社会を支える技術やアイデアを体験できる場となっております。

開催期間は10月13日までの184日間で来場者数は国内外から約2820万人を見込んでいるようです。

日本では1970年にアジアで初めての万博が開催されたのも大阪でした。シンボルとして「太陽の塔」が有名ですが、「人間洗濯機」や「月の石」等が展示されたことでも話題となりました。（今回の関西万博でも最新の技術で製作された「人間洗濯機」や「火星の石」が展示されているそうです。）

それから35年後の2005年には愛知県で愛・地球博が開催されました。日本では2回目の万博となり「自然の叡智に学び、地球的課題を克服しよう」というテーマで開催されました。

自然と人間、未来の社会がテーマであることから弊社では世界最大の緑化展示「バイオラング」というパビリオンで緑化資材の「ベジルーフ壁面ユニット」を出展致しました。その当時はいろいろな苦労もありましたが、世界的なイベントに出展できたことは弊社としても大きな出来事であり、実績となりました。

さて20年ぶりに日本で開催される今回の関西万博でも、弊社の材料を多数ご採用頂きました！　例をあげますと、「ハンガリーパビリオン」、「フランスパビリオン」「バーレーンパビリオン」「大屋根リング（EV・ESピット）」「フードコート（ピット・地下外壁部）」、「パナソニック館」「ウーマンズパビリオン」等々、いろいろな箇所に屋外屋内用・水槽類地下用のポリマーセメント系塗膜防水材「ビッグサン」の各工法をご採用頂き、材料を出荷いたしました。

建設の分野におきましても最新の技術が集まるイベントにビッグサンをご採用頂いた事は弊社としても大変光栄なことだと考えております。

今後も弊社の社訓にもある「独創の技術」で未来社会に貢献できる材料を開発・供給していきたいと考えておりますので、引き続きビッグサン並びに弊社製品を宜しくお願い致します。

スカイコートW

＜タイル張り面の透明外壁防水材＞

スカイコートWは、透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした1液型外壁用透明防水材です。透明な塗膜な為、タイル仕上げの意匠性をそのままに雨水の侵入を防ぐことができます。

透明な塗膜でタイル仕上げの意匠性はそのまま!!

主な特長

1. オール水系
2. 超高性能被膜
3. 優れた施工性
4. 防カビ・防藻機能

詳しくは
YouTube
大日化成
チャンネルで

大日化成チャンネル

こんなところで活躍しています

工場敷地内（VUS500）

下地調整材シリーズ 他工法でも活用いただけます

スカイレジンWE

スカイレジン WE は水系
エポキシ樹脂をベースとする
ローラー施工タイプのエポキシ
ポリマーセメント系下地調整材

EPC－T

2材型・水系エポキシ樹脂ベースの
薄付けタイプ素地調整材　下団1種合格品

エポフィラー

水系エポキシモルタルでありながら
画期的な2材で使いやすい

プライマーE

各種溶剤系及び無溶剤系、水系材料の
下塗りプライマーとして使用が可能

BIGSUN ラピタルエース

＜速硬型軽量プレミックスモルタル＞

コンクリート欠損部の補修に最適なポリマーセメントモルタル

速硬
軽量
薄塗りから
厚塗りまで可能
取扱簡単!!

屋上緑化の意義：都市環境改善と建物の価値向上

屋上緑化は、都市部特有の高温化現象であるヒートアイランド現象の緩和に、複数の作用を通じて貢献します。

その主なメカニズムは、植物の蒸散作用、緑化層による遮熱効果、そして土壌による保水効果です。植物が葉から水分を蒸発させる際、周囲の熱エネルギーを吸収するため、屋上表面やその周辺の気温上昇を抑制します。特に夏季の強い日差しのもとでは、この冷却効果が顕著に現れます。

また、緑化層を構成する植物や土壌は、アスファルトやコンクリートといった従来の屋上被覆材と比較して、太陽光の吸収率が低いため、屋上表面の温度上昇そのものを抑制します。

これにより、建物内部への熱の侵入を減らし、空調負荷を軽減する省エネルギー効果も期待できます。さらに、土壌は降雨を一時的に貯留し、ゆっくりと蒸発させることで、路面などの急激な温度上昇を防ぎ、都市全体の熱環境を穏やかに保つ役割を果たします。

ただし、屋上緑化によるヒートアイランド緩和効果の程度は、緑化面積の規模、植栽する植物の種類や密度、地域の気候条件など、様々な要因によって左右されます。

広範囲な都市部全体での屋上緑化の推進によって、より顕著な気温低下効果が期待できる一方、個々の建物における効果は限定的な場合もあります。

また、屋上緑化はヒートアイランド緩和以外にも、建物の断熱性向上による省エネルギー、屋上防水層の保護による長寿命化、雨水流出の抑制、都市景観の向上、そして都市における貴重な緑地空間の創出による生物多様性の保全といった多岐にわたるメリットをもたらします。

一方で、初期導入コストや維持管理の手間、建物の構造的な負荷、適切な灌水装置の必要性といった課題も存在します。

屋上緑化はヒートアイランド現象を完全に解消する万能な対策ではありませんが、他の都市熱対策と組み合わせることで、より持続可能で快適な都市環境の実現に貢献する重要な要素の一つと言えるでしょう。

スタッフ紹介

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

本社の総務部に所属しております、幸野麻衣と申します。

２０２４年の年始に派遣社員として入社し、１０月にありがたく正社員登用となりました。主な業務は事務処理で、仕入・経費の請求書処理、また納品書・請求書発行です。昔から算数が苦手で、数字のことを聞かれることに苦手意識がありましたが１年半が経過し、ようやく慣れてきたところです。

また、毎日総務部の先輩方と一緒に受注処理もしています。皆さんそれぞれ受注以外にも担当業務を持っているため周りの方の仕事の状況を見て、コミュニケーションをとりながら手分けして受注処理を進めるのがやりがいでもあります。

現在私は本社の中で一番社歴が短いのですが社長を始め、上司、先輩方が気さくに優しく話しかけてくれます。総務部の方々はもちろんのことですが、営業部と同じ空間で仕事をしていて、営業部の方々にも別け隔てなく接して頂いています。さすが営業部。お話の上手な方が多いので、すごいなあ。と業務ではなくとも、いつも勉強させていただいています。

最近、観葉植物のお世話をするようになり、面白さを感じています。

今我が家にいるのはモンステラ、ウンベラータ、スパティフィラムと育てやすい品種ばかりではありますが、陽の当たり方、水をあげる量や頻度、鉢の大きさ、土の状態、剪定状況によって育ちが本当に大きく変わります。

季節柄仕方ない部分はありますが、冬にだんだん元気がなくなる様子を見て置く場所を変えたり、葉水する頻度を変えたりするうちに冬の寒さで葉っぱが全てなくなってしまったウンベラータも今ではもさもさと葉を増やしていますし、モンステラも元々置いていた場所では手狭になるくらい大きく成長していて、それを見ていると幸せな気持ちになります。

同じように仕事でも周りの状況をこまめに見渡して先輩方の手の届かない場所をしっかりフォローできるように努めます。今後とも、よろしくお願い致します！

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702
●東京支店
〒105-0012　東京都港区芝大門 1-4-14 芝栄太楼ビル 5F
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

次号も
お楽しみに

URL : https://dainichikasei.cp.jp

Vol.69

映画で学ぶ環境問題

インターステラー
Interstellar

監　督：クリストファー・ノーラン
脚　本：ジョナサン・ノーラン
出　演：マシュー・マコノヒー
　　アン・ハサウェイ
配　給：パラマウント映画
　　ワーナー・ブラザーズ
上　映：169 分
公　開：2014 年

本作は壮大な宇宙を舞台に、人類の存亡をかけた過酷な旅を描いています。ブラックホールやワームホールといった宇宙物理学の概念を駆使した映像美と、父娘の愛というテーマが観る者の心を深く揺さぶります。しかし、その物語の根底には、現代社会が直面する深刻な環境問題が色濃く反映されているのではないでしょうか。

物語の舞台となる近未来の地球は、深刻な環境悪化によって砂塵嵐が吹き荒れ、農作物は枯れ果て、人類は食糧危機に瀕しています。かつてＮＡＳＡのパイロットだった主人公クーパーは、今は農夫として、娘マーフと共に過酷な現実を生きています。

科学技術は過去のものとなり、人類はただ滅亡を待つばかり。この荒廃した地球の姿は、決して遠い未来の空想ではありません。

映画で描かれる砂塵嵐は、土壌の劣化と気候変動がもたらす最悪のシナリオを象徴しています。過剰な耕作や森林破壊によって大地は生命力を失い、異常気象が頻発することで、作物は育たなくなります。これは、現代社会が抱える土壌汚染、砂漠化、そして地球温暖化といった複合的な環境問題と重なります。

現在、世界各地で森林破壊が進み、農地の過剰利用による土壌劣化が深刻化しています。気候変動は、異常な高温や干ばつ、洪水などを引き起こし、農業生産に壊滅的な打撃を与え始めています。映画の中で、クーパーがかつての豊かな地球を懐かしむように、もしこのまま環境破壊が進めば、私たちの未来もまた、砂塵に覆われた不毛な大地へと変貌してしまうかもしれません。

作品で描かれている世界では、かつて宇宙開発を主導したＮＡＳＡは解体され、科学技術は過去の遺物として扱われています。これは、環境問題への対策を怠り、科学技術の発展を軽視した結果、人類が未来への希望を失ってしまった姿を描いていると言えるでしょう。

現代社会においても、一部で環境問題への対策を軽視する声や、科学技術の発展を盲信する風潮が見られます。しかし、地球の環境問題は複雑に絡み合っており、単一の技術革新だけで解決できるものではありません。科学技術の発展と、環境への配慮を両立させ、持続可能な社会を築くための努力を怠れば、本作のように未来が無くなってしまうかもしれません。

物語の中心には、クーパーと娘マーフの強い絆が描かれています。クーパーが宇宙へと旅立つ決断をしたのも、未来の世代のために地球を救いたいという強い思いがあったからです。マーフもまた、父の意志を受け継ぎ、地球に残って科学者として問題解決に尽力します。

この父娘の愛の物語は、私たちが次世代に対して負う責任を象徴しています。私たちが今、環境問題に真剣に向き合い、持続可能な社会を築くための努力を怠れば、未来の子供たちは、映画のマーフのように過酷な環境で生きることを強いられるかもしれません。

本作インターステラーは、単なるSF映画ではありません。それは、私たちが目をそらしてはいけない地球の未来の姿を、描き出した警鐘の物語とも思えます。映画が描く未来は決して明るいものではありませんが、同時に、まだ私たちには未来を変える力があることを思わせているのではないでしょうか。

今、私たちができることは何でしょうか。それは、地球温暖化対策、再生可能エネルギーへの転換、資源の節約、廃棄物の削減など、多岐にわたります。一人ひとりの行動は小さいかもしれませんが、それが集まれば大きな変化を生み出すことが可能です。

映画の中で、クーパーはブラックホールの特異点から娘へとメッセージを送るという奇跡を起こします。私たちもまた、未来の世代に向けて、希望のメッセージを送ることができるはずです。

『インターステラー』を単なるSF映画として終わらせるのではなく、その奥に潜む環境問題への深いメッセージを受け止め、私たち自身の行動を見つめ直すきっかけとすべきではないでしょうか。未来の地球を救うために残された時間は、刻一刻と過ぎています。

私たち一人ひとりが「インターステラー」の登場人物になったつもりで、未来への責任を果たすべく行動をおこす時ではないでしょうか。